

祝 辞

本日、ここ海上自衛隊 第1術科学校 大講堂において、第68期一般幹部候補生課程及び第70期飛行幹部候補生課程の卒業式が、厳粛に挙行されるに当たり、地元、江田島市民を代表して、一言お祝いの御挨拶を申し上げます。

この輝かしい歴史と伝統を誇る、海上自衛隊幹部候補生学校を巣立って行かれる、一般幹部候補生課程及び飛行幹部候補生課程を御卒業の皆様、そして御臨席の御家族の皆様、本日は誠にめでたうございます。

また、今日まで御指導を尽くされました齋藤学校長を始め、教官の方々並びに職員の皆様方に対して、深甚なる敬意を表します。

今こうして皆様の規律正しく、凜とした姿を拝見いたしますと、ここ江田島で過ごされた日々が、厳しい中にも充実したものであったと推察いたします。

私は、崇高な使命を担われている海上自衛隊の皆様を誇りに思っております。

皆様にはこれからも、海軍兵学校の伝統を受け継ぐ、この幹部候補生学校で学ばれたことを誇りとし、更にたくましく成長していただきたいと願っております。

さて、近年では、国内における災害派遣や復興支援活動、また海外における海賊対処行動や国際平和協力活動等において、自衛隊の皆様の役割は、年々その重要度が増しており、皆様に寄せられる国民の期待は益々高まっております。

こうした状況の中で、自衛官の皆様が、与えられた任務を全うし、国民の生命・財産を守り、世界の平和と安定に貢献されているその姿は、日本国民の誇りであると思っております。

どうか、本日御卒業される皆様におかれましては、ここ江田島で培った「強い使命感」と、御卒業される同期との「チームワーク」を大切にしてくださいながら、国民の負託に応えていただきたいと願っております。

皆様御存知のとおり、ここ江田島は、明治21年（1888年）、今から130年前に、海軍兵学校が東京築地から移転し、その後、昭和31年に海上自衛隊をお迎えしてから現在に至る62年間、共存共栄、一体不可分の関係で発展しており、自衛隊の皆様との「縁」や「絆」を大切にしてきた地でございます。

先日、市役所に来られたお客様に、海上自衛隊の皆様にとって「江田島は、心のふるさと」と言われていますと申し上げたら、「自衛隊の方だけではなく、日本人のふるさと」でもあると、おっしゃっていただきました。

その方は、教育参考館を見学され、近代日本、明治以降の歴史を学ばれ、大変感銘を受けられたそうであります。

改めて、江田島の地に旧海軍兵学校、第1術科学校、幹部候補生学校を、設置いただいた、先人の皆様に、心から感謝申し上げたいと思います。

皆様におかれましては、江田島市を「心のふるさと」として、折にふれ、今後も訪れていただければ、市民一同、心から歓迎申し上げます。いつの日か、皆様とお会いできる日を、楽しみにしております。

結びになります。日本国の繁栄、海上自衛隊の益々の御隆盛、御発展、そして御卒業される皆様並びに御家族の皆様、御臨席のすべての皆様の、御健勝と更なる御活躍を、心よりお祈り申し上げ、皆様への感謝とお祝いの言葉とさせていただきます。

平成30年3月17日

江田島市長 明岳 周作